

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	【振り返り作業からの課題】 ①利用者同士の交流が生まれるような仕組みづくりの検討	A	B
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。	②利用者同士で課題解決していくことができるよう、ママズトークの回数や内容の検討をする。	A	A
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。	③拠点利用者数が少ない地域に向き、ニーズ把握をし、拠点事業として展開を検討する。	B	B
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。	④若年層の養育者など、少数派の利用者のニーズを吸い上げ、今後の支援につなげることができるよう検討する。 ⑤拠点ひろばスタッフが子ども同士の関わりや親子での遊びを広げる視点をもって関わる。	A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)H30年度とR3年度の比較 ※R3年度はコロナ禍対応でひろば利用及びイベント定員を人数制限して運営した。

利用者数		H30年度	R3年度	対象		H30年度	R3年度
利用者総数	23,910人	8,791人	母親以外	父親	621人	354人	
新規利用者組数	938組	510組	祖父母	349人	55人		
			プレパパ	5人	54人		

  

イベント	H30年度	R3年度
保育士さんと遊ぼう!	111組 234人 (4回)	22組 47人 (2回)
みんなで遊ぼうトミカの日	50組 128人 (3回)	28組 84人 (3回)
親子でリトミック	259組 528人 (12回)	85組 176人 (10回・うちオンライン配信2回)
金曜おはなし会	290組 600人 (12回)	75組 155人 (7回・うちオンライン配信2回)
さつま宇収穫体験	27組 88人 (1回)	30組 104人 (1回)

  

対象	イベント	H30年度(回数)	R3年度(回数)
父親	パパとベビーマッサージ	38組 112人 (4回)	17組 50人 (3回)
	パパと一緒におはなし会	28組 74人 (2回)	6組 18人 (1回)
	パパと遊ぼう@いそピヨ	15組 46人 (1回)	10組 23人 (1回)
	パパ講座		15組 43人 (2回)
妊娠期	マタニティ・ヨガ	156人 (12回)	57人 (9回) ※オンライン配信(1回)
	マタニティさんのための安産カフェ	161人 (12回)	42人 (7回) 2人 (1回zoom開催)
	プレパパ・プレママの会		88組 154人 (10回)
多言語・多文化	国際ママ・パパ会(H30)	34組 89人 (5回)	
	親子で楽しむ国際交流(R3)		5組 10人 (2回)
発達	いぶきっずinいそピヨ		7組 14人 (1回)
双子・三つ子の親子	双子ちゃん三つ子ちゃんの会	17組 56人 (4回)	11組 42人 (4回)
きょうだい育児の親子	きょうだい児あつまれ!	5組 16人 (1回)	7組 22人 (2回)
高齢出産	アラフォーママの会	79組 158人 (5回)	29組 58人 (5回)
若年出産	ブチママの会	4組 8人 (1回)	6組 13人 (2回)
新規転入者	あつまれ!ニューフェイス	22組 48人 (2回)	10組 21人 (2回)
ひとり親	ひとり親サロン@いそピヨ	2組 5人 (1回)	※コロナの影響で中止
あかちゃんと養育者	あかちゃんタイム(6か月まで)		76組 151人 (11回) (うち1回zoom開催)
	ベビーマッサージ(2~9か月)	76組 152人 (8回)	45組 90人 (6回)

  

情報の入手先	割合	欲しい情報	割合
1位 インターネット・SNS	58.5%	1位 保育園・幼稚園	77.4%
2位 友人・知人	45.6%	2位 子どもの病気・怪我の対応	74.6%
3位 区役所	42.6%	3位 地域情報	70.0%
4位 広報(区)	27.1%	4位 発達・子どもの対応	69.3%
5位 いそピヨ	25.2%	5位 イベント	68.3%

1.利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。

○今後の利用につながるように、初来所の利用者には特に丁寧な対応を心がけている。他の利用者との交流のきっかけづくりや、地域で孤立しないよう近隣の子育て情報を提供している。  
 ○地域のボランティアから提供していただいた、季節ごとの拠点ひろばの飾り付けや持ち帰り用の折り紙作品等で、場の雰囲気作りをしている。  
 ○コロナ禍での感染対策や利用状況を、ホームページやインスタグラムで発信した。感染症対策として、玩具や書籍、絵本を消毒できるものだけに制限したり、予約の際の体調確認を徹底し、安心して過ごせる場となるよう配慮した。  
 ○子育てサポートシステムの預かりを拠点ひろばで行うことで、利用者や提供会員との自然な交流が生まれている。活動を身近に見ることで安心した預かりの利用にもつながっている。  
 ○拠点ひろばで自由にやり取り出来るリサイクル品(子ども服等)の設置や、玩具、育児用品のリサイクル写真の掲示をしている。リサイクル品のやり取りから交流が生まれたり、不要になった物が、必要な方へつながる循環の場となっている。

2.多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。

○磯子区の母子保健コーディネーターとともに「プレパパ・プレママの会」を拠点で開催し、妊娠期からの支援を強化した。また、「あかちゃんタイム」を同時開催し、参加している赤ちゃんに触れあい、先輩ママとの会話で子育てのイメージを得る場とした。  
 ○共通するテーマをもつ養育者同士が交流し、気持ちの共有や課題を話し合える場とした。  
 ・「あつまれ!ニューフェイス」新規転入者のための情報交換や友達づくりの場。地域の先輩ママボランティアが情報提供者として参加。  
 ・「アラフォーママの会」40歳前後の養育者のための情報交換と交流の場。いそピヨ応援隊の子どもの見守りのもと、磯子スポーツセンターの講師によるストレッチを開催。  
 ・「ブチママの会」若年層(25歳前)の養育者のための情報交換と交流の場。  
 ・「あかちゃんタイム」生後6か月までの赤ちゃんとその養育者のための情報交換と交流の場。拠点スタッフによるわらべ歌や手あそび、絵本の読み聞かせ。  
 ・「きょうだい児あつまれ!」第2子以降のきょうだい児育児をされている養育者のための情報交換と交流の場。  
 ・「マタニティさんのための安産カフェ」  
 ・「双子ちゃん三つ子ちゃんの会」  
 ○磯子区基幹相談支援センターいぶきで定期開催している、発達に不安を抱える親子のためのひろば「いぶきっずinいそピヨ」を拠点ひろばで開催した。「いぶきっずinいそピヨ」は拠点の休館日に開催することで参加しやすくなり、受け入れ人数も拡大できたことでより多くの参加につながった(いぶき定員2組→いそピヨ7組参加)。養育者がゆったりとした気持ちで交流出来るように拠点スタッフの配置を手厚くした。令和4年度から回数を増やして開催していく。  
 ○父親向け「パパと一緒にベビーマッサージ」や「パパと一緒におはなし会」「パパと遊ぼう@いそピヨ」「パパ講座」を開催し、父親が気軽に参加できる場を設け、父親同士の交流のきっかけ作りや父子での利用につながった。

○外国籍の養育者のために「親子で楽しむ国際交流@いそピヨ」を開催した。内容と回数を地域のママボランティアとともに検討し、テーマごとのフリートークを中心にするこで、気軽に参加できるような場とした。  
 ○蔓延防止等重点措置期間中にオンライン事業「マタニティさんのためのリモート安産カフェ」「オンラインベビーの会」を開催し、妊娠から産後の外出が難しい方が孤立しないよう参加できる場を設けた。  
 ○多世代交流のため「孫育て・たまご（他孫）育て」を開催した。現役世代から祖父母世代までが参加し、講師による子育ての現状のお話と工作を楽しみながら、幅広い世代が交流した。

**3.養育者と子どものニーズ把握の場になっている。**

○妊娠期登録者情報より、出産後も利用している割合（R2年度 65%）を調べた。妊娠期事業から子育て期の拠点ひろば利用状況を確認した。  
 ○通園児の養育者から幼稚園情報を収集し、「幼稚園情報ファイル」を作成した。幼稚園選びの情報ツールとして活用している。  
 ○イベント後にアンケートを実施し、把握したニーズをその後の事業の運営やプログラムに反映した。特に参加者から運動したいという要望を取り入れ「アラフォーママの会」で磯子スポーツセンターの協力を得てストレッチを取り入れた。その際、託児ボランティア「いそピヨ応援隊」を配置し、養育者が参加しやすとした。  
 ○養育者から地域のロコミ公園情報を収集し、親子の外出先のヒントとして、拠点ひろばに掲示した。  
 ○拠点ひろば、乳幼児健診、保育園、親と子のつどいの広場でニーズ把握のための拠点アンケートを実施した。（データ参照）拠点の利用者の状況やニーズを把握することで、拠点ひろば内の情報整理や掲示、発信の参考となっている。

**4.親（養育者）自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。**

○拠点スタッフのスキルアップのため、子どもとの関わり方の講座や、区の保育士研修を受講した。  
 わらべうたやからだ遊び、手遊び、絵本の読み聞かせ等を養育者に伝えている。  
 ・「あかちゃんタイム」「パパと一緒におはなし会」  
 ○養育者・支援者向けに「こどもの育ちにつながる遊びの大切さを知る、伝える」を開催した。遊びと育ちの関係性を伝えながら子どもの年齢に合った遊びについて学んだ。  
 ○父親向け講座「パパを楽しもう@いそピヨ」を開催し、子どもとの関わり方や遊び方を学ぶ機会を設けた。  
 ○先輩ママにボランティアとして子育てのアドバイスや地域情報を伝えてもらっている。  
 ・「プレパパ・プレママの会」「あつまれニューフェイス」  
 ○「いそピヨニュースレター」のマタニティ特集で、先輩ママの妊娠期から子育て期の体験や思いを、プレママへのメッセージとして掲載した。

**評価の理由(区)**

①②「あつまれ！ニューフェイス」「アラフォーママの会」「フチママの会」「双子ちゃん三つ子ちゃんの会」「いぶきっずinいそピヨ」「親子で楽しむ国際交流@いそピヨ」など、様々な親子を対象とした事業や多世代交流を目的とした事業の企画、運営、改善に向けた振り返りを行った。  
 また、40歳代の母親を対象とした事業では、拠点ではストレッチ、区では交流をメインとした内容としたり、出産前の養育者を対象とした事業では、区は父親が参加しやすい土曜日開催する等同じ対象者でも、区と拠点と役割を分担して開催した。  
 ③区と拠点の定例会や連絡会を通して、ひろば等で把握した養育者と子どものニーズについて、お互いに共有できている。区内にダウン症の親子が集まれる場がないという課題があり、今後解決に向けて検討していく予定である。  
 ④母子健康手帳交付時の情報提供、プレパパ・プレママ教室の共同開催、区でも配布しているチラシの拠点での配架等、妊娠から養育者が子育てに関する情報を得て、対応の仕方について学べるようにしている。また、あかちゃん教室、こんにちあ赤ちゃん訪問員連絡会、主任児童委員連絡会定例会で拠点の活動を紹介する機会を設けている。

**拠点事業としての成果と課題**

（成果）  
 ①磯子区の母子保健コーディネーターとともに「プレパパ・プレママの会」を拠点で開催したことで、妊娠期の利用者が増加した。同時開催の「あかちゃんタイム」に参加している親子と触れ合うことで子育てや拠点利用のイメージを持つことが出来た。  
 ②発達に不安を抱える親子のためのひろば「いぶきっずinいそピヨ」を拠点ひろばで開催したことで参加者が増加した。また拠点での参加がきっかけで、磯子区基幹相談支援センターの利用につながった。  
 ③イベントで子育てのアドバイスや地域情報を伝えてもらったり、「いそピヨニュースレター」でマタニティさんに向けての体験談やメッセージを発信する場を設け、先輩パパ・ママがボランティアとしての活躍の場が広がった。  
 （課題）  
 ①妊娠期事業から子育て期のひろば利用の割合の増加を目指して、拠点事業の内容や周知を検討する。  
 ②拠点広場の利用増加につなげるため、コロナ禍で利用を制限していたおもちゃや書籍、絵本等の見直しと、遊び場としての工夫をしていく。

**振り返りの視点**

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者（養育者、子ども、ボランティア等）の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区こども家庭支援課や関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気付き、学ぶ機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	【振り返り作業での課題】 ①相談内容の振り返りを行い、個別から集団を対象とした相談への事業展開を検討する。 ②法人の特色を活かした事業展開を検討する。(児童精神科医による講座など) ③相談対応に活かせるように、年齢・対象別の情報整理と情報更新を行う。(妊娠期から就学前まで)	A	B
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができている。		A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

	H30年度	R3年度
ひろば相談	3,810件	1,437件
個別相談	545件	240件
オンライン		6件

●ひろば相談内訳

	H30年度		R3年度	
1位 子どもの生活	1,019件 (27%)	親自身	390件 (27%)	
2位 子どもの健康	620件 (16%)	子どもの生活	356件 (25%)	
3位 親自身	557件 (15%)	制度・サービス	253件 (18%)	

●ひろば相談年齢

	H30年度	R3年度
1位	0歳	0歳
2位	1歳	1歳
3位	2歳	2歳

●個別相談内訳

	H30年度		R3年度	
1位 親自身	123件 (23%)	親自身	99件 (41%)	
2位 子どもの生活	112件 (21%)	子どもの発達	47件 (20%)	
3位 子どもの健康	61件 (11%)	子どもの生活	38件 (16%)	

●個別相談年齢

	H30年度	R3年度
1位	1歳	1歳
2位	2歳	2歳
3位	3歳	3歳

●年齢別ひろば相談内容 (R3年7~9月集計)

0歳	①子どもの生活	②親自身	③制度・サービス ③就園・就学
1歳	①親自身	②子どもの発達	③子どもの生活
2歳	①子どもの生活	①親自身	③制度・サービス ③子どもの発達
3歳	①親自身	②就園・就学	③子どもの生活
4歳以上	①親自身	②子どもの生活	③子どもの発達

●専門家による相談

相談(集団)	イベント	H30年度	R3年度
	歯みがきの始めかた		77組 159人 (4回)
はじめての離乳食教室		115組 233人 (6回)	35組 72人 (5回)
「出前」就職支援セミナー		26人 (3回)	13人 (3回)
保育サービスに関するお話		14人 (1回)	8人 (1回)
ぼうさいイロハ講座		65組 135人 (8回)	12組 25人 (2回)
小児救急法		16人 (1回)	8人 (1回)
教育資金のおはなし			5人(1回 zoom開催)

相談(個別)	イベント	H30年度	R3年度
	助産師相談		96人 (12回)
栄養相談		97人 (12回)	61人 (10回)
保育・教育 コンサルシユ		22人 (6回)	24人 (6回)
児童精神科医による相談 「子育てママのモヤモヤを吹き飛ばそう」		8人 (7回)	10人 (9回)

●スタッフの研修への参加 (R3年度):13回

だんすきが伝わる関係づくり、区わらべうた研修、赤ちゃんとの社会と関係づくり、トラウマとPTSDの理解とケア、こども青少年局子育て支援実務者研修(初任者編)、こども青少年局子育て支援実務者研修(口堅者研修)、「こどもが抱える課題」を考える~ヤングケアラーの支援~、発達障害(疑い)の子を持つ保護者からの相談対応、シビックテック講座、法人スーパーハイザーによる研修、いそごひろば連絡会研修「対人援助の基本」、こどもの発達障害に寄り添う

1. 養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。

○拠点スタッフは安心して会話できる雰囲気や関係づくりを心掛け、相談者に寄り添い、不安や悩みを受け止めている。

・ひろば相談の内容を定期的に拠点スタッフ間で共有している。相談内容に応じた各種専門相談へのつなぎ方、提供する情報の確認を行っている。

・相談の内容や状況によっては、相談場所や子どもの見守り、拠点スタッフの配置の工夫を行い安心して相談できる場を作っている。

○拠点スタッフが区や法人の研修・見学に積極的に参加し、スキルアップにつながった。

○ひろば相談において、対応が難しく専門機関との連携が必要な場合は、横浜子育てパートナーと協力することで、より丁寧な個別対応ができた。

○養育者の悩みに応じた専門家による個別相談や講座を開催した。来所が難しい養育者には電話での対応も行った。

○拠点ひろばの情報ツールを内容や対象年齢に分けて情報整理し、養育者が手に取りやすくなるための工夫を行っている。情報の更新内容は拠点スタッフと常に共有し、利用者への情報提供や相談対応に役立てている。

○区の相談一言メモと法人発行のブックレットをひろばに設置している。相談のきっかけづくりとなるように、情報を手に取る養育者に拠点スタッフが声をかけている。

○法人の特色を活かした講座「こどもの発達障害に寄り添う」を開催し、養育者が「発達障害」について学ぶ機会を提供した。

## 様式1-2 地域子育て支援拠点事業評価シート

2. 相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。

○相談内容に応じて適切な対応ができるように、区と随時連絡を取り合い支援方法を検討している。

○相談内容により、適切な関係機関へつなげている（区、病院、親と子のつどいの広場、児童家庭支援センター、基幹相談支援センター等）。

○コロナ禍で父親が子どもと過ごす時間が増え、父親の子どもとのかかわり方や遊び方への悩みがあることがわかり、全日本育児普及協会と連携し「パパと楽しもう@いそびヨ」を開催した。「体を使った遊び」「絵本の読み聞かせ」「ダンボール遊び」等の講座を行い、父親が育児の実践を学ぶ機会を提供した。

### 評価の理由(区)

①母子健康手帳交付時、両親教室、家庭訪問、あかちゃん教室、乳幼児健康診査などで、拠点の相談機能について、養育者に紹介した。

- ・区が把握している地域の子育て支援関係者に拠点の相談機能について説明した。
- ・子育て支援者向けの研修会を拠点スタッフにも案内し、スキルアップの機会を設けた。

②継続して支援が必要な相談者については、随時担当者間で連携をとるほか、定例会で組織的に引継ぎを受ける機会を設けた。

### 拠点事業としての成果と課題

(成果)

①定期的に相談内容をスタッフ間で共有し、把握した相談内容をもとに情報提供や相談対応に生かしている。

②区の相談一言メモと法人発行のブックレットを拠点ひろばに設置している。相談のきっかけづくりとなるよう、拠点スタッフが養育者に声をかけている。

③外出が困難な養育者に対し、専門家の相談を電話で行った。

④全日本育児普及協会の協力を得て父親対象の講座を開催し、父親が育児の実践を学ぶ機会を提供した。

⑤法人の特色を活かした講座「こどもの発達障害に寄り添う」を開催し、養育者が「発達障害」について学ぶ機会を提供した。

(課題)

①研修への参加や地域の子育て支援の場に出向き、子育て資源を知る機会を設けるなど、拠点スタッフがニーズに合った相談の対応力をさらに上げる必要がある。

### 振り返りの視点

ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。

イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。

ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。

エ 区こども家庭支援課との連携のもと、各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。

オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、区こども家庭支援課と相談しながら適切に対応しているか。

カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	【振り返り作業からの課題】 ①情報が行き届いていない支援者、養育者を分析する必要がある。 ②拠点ニュースレターの目的に合わせた発信方法の検討をする。 ③養育者視点での情報収集・発信の工夫をする。	A	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。	④相談統計を活用し、さらに情報収集・提供の方法を検討する必要がある。 ⑤拠点情報やエリア情報を養育者に常時届けられる形にするための方法の検討をする。	A	A
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。	⑥情報収集と発信が、子の年齢が0~2歳児の拠点ひろば利用者中心となっている。子の年齢が3歳~未就学児をもつ養育者への情報収集・提供発信の検討が必要である。	A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ) ※R2年3月~6月3日まで休館。緊急事態宣言、まん延防止等重点措置期間の活動自粛期間あり。

情報提供項目	H30年度	R3年度	オンラインイベント参加者数	(人)
子育て支援連絡会参加団体数	96団体	110団体	リモート安産カフェ(R2)	3
地域別カレンダー参加団体数	35団体	50団体	教育資金の準備のおはなし(R3)	5
拠点ホームページ閲覧数	26,484件	22,949件	対人援助の基本(R3)	38
いそピヨニュースレター発行部数	700部	1,300部	子どもの発達障害に寄り添う(ハイブリッド)(R3)	18
インスタグラムフォロワー数	R2年度開始	R4.03.31現在 505人	オンラインベビーの会(R3)	2

いそピヨニュースレター：発行回数 年6回 支援者向け報告号 年1回  
配架場所 子育て支援連絡会、関係機関、こにちは赤ちゃん訪問員、両親教室等

1. 区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。

○「いそピヨニュースレター」やイベントチラシ等の充実をはかり拠点の情報が広く伝わるよう工夫した。

- ・隔月で発行している「いそピヨニュースレター」の内容を支援者向けから、養育者も見やすいように見直し、サイズもA4からA3にすることで拠点の情報を広く伝えることができた。
- ・「いそピヨニュースレター」や周知チラシを効果的に養育者に届けるため区と共に配布計画を検討し、区の事業等での配布を依頼した。(発行月毎600部を区役所乳幼児健診、あかちゃん教室、両親教室、母子保健コーディネーター、こにちは赤ちゃん訪問員、母子健康手帳交付窓口等で配布している)
- ・拠点が発行するイベントチラシや「いそピヨニュースレター」等に拠点のホームページとインスタグラムのQRコードを添付し、アクセスしやすくした。

○広報よこはま磯子区版に拠点のイベント情報を掲載し、広く区民に周知し、参加を呼び掛けている。

○通園児の養育者から幼稚園情報を収集し、「幼稚園情報ファイル」を作成した。幼稚園選びの情報ツールとして活用している。

○拠点ひろばの情報ツールを内容や対象年齢に分けて情報整理し、養育者が手に取りやすくなるための工夫を行っている。また、拠点スタッフと情報共有することで必要な情報がスムーズに養育者に提供できるようになった。

○子育て支援連絡会を活用し、養育者に効果的に情報が届く取り組みを行っている。

- ・地域の情報が拠点から離れた地区の養育者にどのように届いているか、子育て支援連絡会のメンバーに聞き取りを行い、必要としている養育者に届くよう、必要部数や掲示の形状、配布の仕方について工夫した。
- ・子育て支援連絡会メンバーや関係機関に拠点ホームページの地域別カレンダーへの掲載を呼びかけ、タイムリーな地域情報を発信している。
- ・地区別子育て支援連絡会が作成している子育て情報マップの更新を行い配布している。R3年度は更新ができていないためR4年度の地区別子育て支援連絡会において更新を行い配布していく。

○コロナ禍で拠点情報を広く区民に届けるためにR2年度にインスタグラムを開設し、フォロワー数がR4年3月31日現在505人となった。イベントや拠点ひろばの様子をタイムリーに発信できている。

○対面での事業の開催が難しい期間はオンラインを活用して養育者に情報発信することができた。しかし、対面を希望する方も多く、周知、参加の呼びかけに苦戦した。

- ・「オンラインママの会」「発達障害の理解」「教育資金の話」「マタニティのための安産カフェ」等を開催した。
- ・拠点のホームページやインスタグラムを活用して「パパ講座」「金曜おはなし会」「親子でリトミック」「マタニティ・ヨガ」等の講師からの情報(絵本の紹介、手遊び動画、ストレッチ等)を配信した。
- ・オンライン事業をスムーズに行えるよう、拠点ネットワーク情報共有部会のオンライン勉強会に参加している。

○日本語が話せず電話での対応が難しい外国籍の養育者に向けて、拠点ひろば利用やイベント申し込みをメールで出来るようにした。

○子育て相談の希望者にメールでの相談予約を案内し、気軽に申し込めるようにした。

○子育てサークルの情報を集約し拠点内に掲示、配布していることで子育てサークルに繋ぐことができています。

## 様式1-3 地域子育て支援拠点事業評価シート

### 2. 子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。

- 拠点アンケートの結果では子育て情報の入手先がインターネット、友人・知人、区役所、拠点（いそピヨ）の順となっており、インターネットの中には拠点のホームページやインスタグラムがカウントされている。（拠点アンケートの結果は「様式1-1親子の居場所」主なデータ参照）引き続き情報発信の拠点であることを拠点（いそピヨ）のホームページやインスタグラムで周知していく。
- ホームページでの情報発信について検討し、改修した今後もニーズの高い情報を見やすく発信していく。（保育園、一時保育等）
- 子育て支援連絡会等関係機関に対して子育て情報の収集・提供の拠点であることを伝え、各関係機関で掲示、配架して双方の事業周知が進むよう協力を得ている。

### 3. 拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。

- いそピヨボランティアによる「いそピヨノート」（ひろば設置の交換ノート）を活用し、ひろば利用者と先輩ママのQ&Aを集約し、拠点ひろばに設置した。養育者と先輩ママの情報交換ができた。
- 子育て支援連絡会メンバー等関係機関に拠点ホームページの地域別カレンダーへの掲載を呼びかけ、タイムリーな地域情報を発信している。
- 子育て支援連絡会メンバーの「公園めぐり」の情報をもとに公園情報を集約した。拠点のホームページや「いそピヨニュースレター」で発信し、地域での遊び場を紹介することができた。
- 対面での事業が難しい期間をきっかけにオンラインを活用し、養育者に情報発信した。
  - ・「オンラインママの会」「発達障害の理解」「教育資金の話」「マタニティのためのカフェ」等を開催した。
  - ・拠点のホームページやインスタグラムを活用して「パパ講座」「金曜おはなし会」「親子でリトミック」「マタニティ・ヨガ」等の講師からの情報（絵本の紹介、手遊び動画、ストレッチ等）を配信した。
- 親と子のつどいの広場スタッフから協力を得て、幼稚園・保育園の園庭開放、公園情報、サークルの位置情報等を掲載した地図を作成した。
- 子育て支援者の協力を得て、子育てサークルのリーフレットやチラシを作成し、必要な養育者に紹介した。
- コロナ禍での養育者目線の情報の見え方、発信の仕方について聞き取りを行った。インスタグラムへの投稿内容の希望を参考に講座や手遊び等、発信した。
  - ・「親子でリトミック」「マタニティ・ヨガ&マタニティさんのための安産カフェ」等

### 評価の理由(区)

- ①乳幼児健康診査、あかちゃん教室、母子健康手帳交付時、両親教室、こんにちは赤ちゃん訪問員等、妊娠期から拠点の情報提供機能について周知している。また、係内で拠点の機能について共有し、家庭訪問等でリーフレットを用いて周知できるようにした。こんにちは赤ちゃん訪問員連絡会等、関係機関の定例会に参加できるよう支援した。
- ②子育てパートナーが地域で拠点の機能を周知できる場（両親教室やあかちゃん教室など）の日程調整をした。区で作成している子育て支援マップに拠点の情報を掲載し機能を周知した。
- ③拠点とともに、子育て支援連絡会の事務局を担い、拠点と地域の担い手が双方に情報収集・提供できるよう支援した。
  - ・令和4年度は区と拠点が協働し、子育て支援連絡会等関係機関や地域の声を反映させ、子育て支援マップを改訂する。最新情報をわかりやすく伝えるために併せて拠点ホームページもリニューアル等を進めている。

### 拠点事業としての成果と課題

#### (成果)

- ①「いそピヨニュースレター」の内容やサイズの変更等見直しを行った。また、拠点の情報を有効に届けるために配架計画について区とともに検討し、実施できた。
- ②通園児の養育者から幼稚園情報を収集し、必要としている養育者に活かした情報を提供した。
- ③拠点内の情報を緊急度、お勧め、地区別等カテゴリー別に整理更新し、拠点スタッフと共有することで必要な養育者にスムーズに情報提供できた。
- ④イベントアンケートの結果からイベント内容や頻度の変更を行った。
- ⑤発行物に拠点のホームページやインスタグラムのQRコードを添付し、養育者にタイムリーな情報が届く様工夫した。
- ⑥対面でのイベント開催が難しいときにオンラインやSNSを活用して情報発信できた。

#### (課題)

- ①コロナ禍により子育て支援連絡会の開催が思うように出来なかった。そのため、各施設に訪問しての事業把握や情報共有が不十分であった。次年度も養育者に地域の子育て情報が届くよう、関係機関に周知していく。
- ②緊急事態宣言やまん延防止等重点措置期間中は対面でのイベント開催が難しい時期があった。オンラインでのイベントや配信がスムーズに行えるよう、さらに検討していく必要がある。
- ③情報共有が十分でない施設に対し、子育て支援連絡会を通じてアプローチしていく。

### 振り返りの視点

- ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。
- イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入力しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。
- ウ 利用者が情報を入力しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。
- エ さまざまな子育て支援の場に向向いて収集した具体的な情報や、関係機関及びネットワークを通じて得た情報を養育者や担い手に提供しているか。
- オ 拠点の情報収集・提供機能を幅広く区民に周知しているか。
- カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。
- キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	<b>【振り返りでの課題】</b> ①子育て支援連絡会において、ネットワークの構築については地域により差がある。今後、養育者と支援者をつなぎ、地域課題を意識できるような仕組み作りが必要と考える。 ②地区別子育て支援連絡会で子育て支援情報を共有・集約しているが、「子育てフェスタ」の場でしか発信されないなど、情報が養育者まで行き届いていない地域がある。それぞれの地域のネットワークの進み方に合った情報の集約方法と情報発信の方法を検討していく。 ③子育て支援連絡会の中で拠点の事業を知ってもらい、双方向の情報共有を行っていく必要がある。 ④子育て支援連絡会などから親子の遊び場がないという課題があがっている。今後ネットワークを通じて課題解決について検討していく。	A	A
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。		A	B

評価の理由(法人)

【主なデータ】※H31年3月～6月3日まで休館。  
緊急事態宣言、まん延防止等重点措置期間の活動自粛期間あり。

子育て支援連絡会	H30年度	R3年度
全体会	96団体 (1回)	100団体 (紙面1回)
根岸・滝頭・岡村	59人 (3回)	17人 (1回)
磯子・汐見台・屏風浦	63人 (3回)	20人 (1回)
杉田・上笹下	48人 (3回)	20人 (1回)
洋光台	54人 (3回)	19人 (1回)
子育て支援連絡会参加団体	51団体	110団体

アウトリーチ	H30年度	R3年度
出張ひろば (洋光台地区)	54組 112人 (2回)	148人 (3回)
いそピヨ遠足 (プレイパーク)	5組 10人 (1回)	6組 12人 (1回)
いそピヨ遠足 (サークルへ行ってみよう)	21組 43人 (5回)	3組 6人 (1回)
その他	H30年度	R3年度
いそごひろば連絡会	7団体 (4回)	7団体 (4回)
・不審者対策講座	7団体 18人 (1回)	7団体 15人 (1回)
・スタッフ研修 「対人援助の基本」		8団体 38人 (1回)
基幹相談センター いぶきっずinいそピヨ		7組 15人 ボラ2人(1回)

○区内連絡会議等への参加：要保護児童対策地域協議会実務者会議、要保護児童対策地域協議会エリア別会議、館長連絡会、図書館懇談会、NPO連絡会、バリアフリー協議会等（会議はコロナ禍の状況により対面、書面、オンラインでの開催もあり）  
○拠点連絡会 3回、施設長連絡会 6回、拠点ネット連絡会 12回（会議はコロナ禍の状況により対面、書面、オンラインでの開催もあり）

1. 地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。

○区と共に「子育て支援連絡会」の事務局を担っている。  
 ・地域ケアプラザの地域交流コーディネーターの協力を得て、地域課題についての話し合いを行っている。  
 ・子育て支援連絡会を通して地域で行っている事業と養育者を繋ぐ取組みを行い、地域の支援者との連携を強めている。  
 洋光台地区：洋光台地域ケアプラザ事業と共催の親子の交流スペース「ぷらっと」や外遊び版「あおぞらぷらっと」の開催。いそピヨ遠足「プレイパーク」「お花見ウォーク」への参加。子育て情報マップの更新。民生委員による一人暮らし高齢者への年賀状送付協力。地域イベントの情報発信。地域活性化のための会議「おにぎり会議」に参加。「キャンドルナイト」への参加。  
 杉田・上笹下地区：「こそだてフェスタ」の開催。子育て情報マップの更新と工夫についての話し合い。地域のサロンと共催でひろばの開催。公園遊び開催に向けた話し合い。  
 磯子・汐見台・屏風ヶ浦地区：「子育てフェスタ」の開催。地域のサロンと子育てサークル共催のクリスマスイベントの開催。情報マップの更新。活きた公園情報を養育者に届ける取組み「公園めぐり」。公園遊び開催に向けた話し合い。  
 根岸・滝頭・岡村地区：「子育てフェスタ」とリサイクル交換会の開催。子育て情報マップの作成、更新。施設見学会の開催。外遊び開催に向けた話し合い。  
 ○子育てサークル継続のための協力支援について、区と共に地域ケアプラザや地区センター等の関係機関に働きかけている。  
 ○区内の関係機関と顔の見える関係が強化されたことから磯子スポーツセンターの講師の協力を得ることができ、拠点事業「アラフォーママの会」のプログラムにストレッチを追加することができた。  
 ○区と共に「いそごひろば連絡会」の事務局を担っている。親と子のつどいの広場と地域課題の共有やスタッフのスキルアップ等について相互での話し合いができ、研修会を行うなど連携を深めている。  
 ○子育て支援連絡会やいそごひろば連絡会に子育てサポートシステム（以下：子サポ）のコーディネーターが参加している。連携が強化され、地域ケアプラザや親と子のつどいの広場等を会場とした子サポの出張入会説明会を実施することができている。  
 ○磯子区基幹相談支援センターと共催で拠点休館日に「いぶきっずinいそピヨ」を開催した。磯子区基幹相談支援センターと拠点が協力することにより発達が気になるお子さんの居場所の提供や相談の間口を広げることができ、双方の事業が活性化した。  
 ○区民活動支援センターから外国籍ママボランティアの紹介があり、支援者として繋げてもらうことができた。ママボランティアに国際交流イベントの企画、開催の協力を得て、外国籍の親子向けに「親子で楽しむ国際交流@いそピヨ」が開催できた。

## 様式1-4 地域子育て支援拠点事業評価シート

### 2. ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。

○関係機関で行っている事業を集約し、拠点内掲示、拠点ホームページ等で養育者に案内している。各地域の事業を周知することができ、参加につながっている。

○子育て支援連絡会を開催し、養育者を地域の子育て資源に繋ぐ取り組みをしている。

・各地区別子育て支援連絡会において「子育て情報マップ」を作成・更新し、配布している。令和3年度はコロナ禍で関係機関の事業開催が不安定であったため配布を休止した。令和4年度は更新・活用・設置場所等についても検討し、更新作業等継続していく。

### 評価の理由(区)

①地区別子育て支援連絡会を拠点とともに実施し、区内の各地区の子育て支援に関する現状と課題についての共有や関係機関の連携促進に向けた働きかけを行うことが出来た。

・親と子のつどいの広場を対象とした「ひろば連絡会」を行い、区と拠点、つどいの広場が現状と課題を共有し、出てきた課題について対処できるよう研修の機会を設けた。

・毎月定例で、拠点と区で連絡会を開催し、ひろばや子育てサポートシステムの利用者について情報を共有し、対応における課題等について検討した。

②拠点利用者を地域の資源に繋げられるよう、拠点内の掲示やホームページで周知を行った。また、地区別子育て支援連絡会でカレンダー・マップ等を作成し、利用者が地域の情報にアクセスできるようなチラシを作成している。コロナ禍に地域活動の開催が不安定な中で、開催状況の把握が課題だった。サークルやサロン、園庭開放などの最新の実施状況を随時把握し、利用者に情報提供できるよう、拠点と区で検討していく。

### 拠点事業としての成果と課題

(成果)

①地域で行っているイベント等に子育て支援連絡会のメンバーや地域の支援者と協力することで顔の見える関係が強化され、拠点事業への協力を得ることが出来た。

②磯子区基幹相談支援センターと拠点が協力することにより拠点休館日を利用して、発達が気になるお子さんの居場所の提供ができ、双方の事業が活性化した。また、養育者の相談の間口を広げることができた。

③区民活動支援センターから拠点を卒業した外国籍のママボランティアを支援者として紹介してもらった。ママボランティアの協力を得て外国籍の親子向けに当事者目線での「親子で楽しむ国際交流@いそピヨ」が開催できた。

(課題)

①子育て支援連絡会はオンラインでの開催も難しく、関係機関も規制をかけての活動であったため思うように開催できていなかった。各地区の課題やニーズの共有をし、解決に向けてさらに連携を強化していく。

②各地区別子育て支援連絡会において「子育て情報マップ」を作成・更新し、配布している。令和3年度はコロナ禍で関係機関の事業開催が不安定であったため配布を休止した。令和4年度は更新・活用・設置場所等についても検討し、更新作業等継続していく。

### 振り返りの視点

ア 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、連携促進に取り組んでいるか。

イ 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。

ウ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。

エ 養育者を身近な地域の子育て支援の場につなげているか。

オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧に受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。	【振り返り作業からの課題】 ①地域の子育て支援活動の活性化のために、拠点として何が出来るかを区とともに検討する。 ②「いそピヨ応援隊」募集のために、広く区民が参加できる研修会や講座の開催を検討していく。 ③子育て支援連絡会において、引き続き子育ての現状や課題を共有し、支援者から養育者への子育て資源の伝え方を検討していく。(「子育てフェスタ」、情報ツール等) ④子育て当事者となる市民の捉え方が区と拠点で違っていたため、今後子育て当事者とは誰かを話し合い、明確にしていく。	A	A
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		B	B
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		A	B
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

サークル支援	H30年度 5サークル(回数)	R3年度 7サークル(回数)
子育てサークル交流会	延べ8サークル 46人 (2回)	3サークル 3人 (1回) ※1サークル1人に人数制限
オープンサークル	延べ8サークル 46人 (2回)	※コロナの影響で中止

いそピヨ応援隊	H30年度	R3年度
会員数	135人	124人
うち提供会員	97人	91人
活動件数	65件	31件
延べ参加人数	206人	72人

先輩ママボランティア	H30年度	R3年度
あつまれ!ニューフェイス	0人 (2回)	6人 (3回)
マタニティヨガ	7人 (12回)	※コロナの影響で中止
マタニティさんのための安産カフェ	5人 (12回)	※コロナの影響で中止
国際ママ・パパ会	9人 (12回)	
親子で楽しむ国際交流		12人 (2回)

学生ボランティア	H30年度	R3年度
大学生・他研修	57人	75人
小・中学生	7人	6人

1. 地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。

○区と共に「子育て支援連絡会」の事務局を担っている。地域課題や現状の共有等、相互での話し合いができた。  
○いそごひろば連絡会の定期的な開催(年4回)を継続し、現状共有や困りごとの相談、情報交換等を行うことで、担い手の活動を支えている。  
○地域のサロンやつどいの広場、託児ボランティアいそピヨ応援隊(以下いそピヨ応援隊)の活動活性化やスキルアップのため、各種講座を開催した。  
・「こどもの育ちにつながる遊びの大切さを知る、伝える!」「不審者対策講座」「対人援助の基本」「こどもの発達障害に寄り添う」、区役所母子保健の業務体系図の説明・工作を楽しみながらの交流会・虐待防止センター相談員による講座・「緊急救命講習」  
○子育てサークル交流会を定期的に行い現状共有や情報交換、相談を受けている。子育て支援者や地区センター、地域ケアプラザ、地域ボランティア講師の協力を得て活動場所の確保や運営、相談等、活動支援を行った。  
・「いそピヨニュースレター」での特集、拠点のホームページやインスタグラムでの発信、「いそピヨ遠足」の企画等、サークルのPRに協力することで参加者確保につながっている。

2. 養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。

○拠点事業へ参加するきっかけ作りとして、新規利用登録票に得意なことを記入する欄を設け、ボランティアリストを作成した。イベントの講師や先輩ママ、通訳として参加の声かけにつながった。(R3.4月~R4.4月までの登録者 30人)  
・「パパと一緒におはなし会」「あつまれニューフェイス」「親子で楽しむ国際交流」  
○利用者の声から、10周年イベントのプログラムとして歌や楽器演奏を披露する機会を設けた。養育者のスキルを活かし、拠点事業へ参加する機会となった。  
○子育てサポートシステムやいそピヨ応援隊の預かりを拠点ひろばで行うことで、活動を身近に見る機会となり、安心した預かりの利用や提供会員・いそピヨ応援隊の登録にもつながっている。  
○区内関係機関の協力を得て、子育て支援に関心のある区民に向けて「思春期を迎えるまでに知っておきたい3つのこと」の講演会を開催した(R1)。

3. 広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。

○幅広い年齢層の市民が子育て家庭に関心を持つきっかけ作りのため、ボランティア活動へつながるシニアポイントの施設登録を行った。  
○子育て支援連絡会を開催し、支援者同士が交流や情報交換を行うことで、子育て家庭の現状を共有し理解を深める場となっている。  
○「いそピヨニュースレター」で「マタニティさんからつながりたい」の特集を組み、妊娠期から子育て期にかけての拠点の役割と必要性を市民に伝えた。  
○多世代(子育て家庭、祖父母、子育て支援に関心のある方等)対象に「孫育て・たまご(他孫)育て座談会」を開催し、地域や家庭のつながりの大切さを学び共有することで交流を促した。

**4.これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。**

○拠点利用を卒業した子ども達が、小・中学生ボランティアとしてひろばやイベントに参加し、親子とふれあことで学ぶ機会を提供した。

・「トミカの日」「きょうだい児あつまれ！」

○大学生の研修を受け入れ、学生が子どもと一緒に遊んだり、養育者と子育てについて対話することで、学び合う機会となっている。

○「プレパパ・プレママの会」の参加者が、先輩ママから子育てのヒントや情報を聞いたり、赤ちゃんの抱っこ体験をすることで、産後の子育てについて見通しを立て考えるきっかけとなっている。

○先輩ママとしての活動のきっかけ作りとして、「プレパパ・プレママの会」で妊娠期の方へ自身の体験や子育て情報を提供する場を設けた。

**評価の理由(区)**

①つどいのひろば連絡会で区こども家庭支援課の事業について説明する機会を設け、区の事業について理解していただいた。また、コロナ禍で近年は厳しかったが、親と子のつどいの広場やサロン、サークルを訪問し関係づくりを行った。

・子育てサークルが5つ⇒7つ（R4年3月時点）となっており、代表者の選出の相談、チラシを配架、あかちゃん教室で紹介を行った。サークルの課題や困り事をサークル支援依頼書で把握し、子育て支援者とともに解決に向けての取組を検討し、サークル活動が継続できるように支援した。

②子育てサークル代表者が、あかちゃん教室でサークルのPRを行う機会を設けている。子育てサークル代表者が支援を受けるだけでなく、今後地域で子育て支援活動の担い手と活躍するきっかけとしている。

③広報で「こどものこころとからだがつ遊ぶ」について紹介をし、幅広い年代の方に子育てについて発信をした。令和4年度の広報でも「いそごで楽しく子育て」を特集し、区民の子育て家庭への理解を深めるための啓発を行う。

・地域支援チームで他分野の関係者へ子育ての状況について共有した。

④小学校に出張し、小学生へ向けて「命の授業」を行った。大学生が拠点の見学を行う機会を提供し、子育てについて学ぶ機会となった。また、「プレパパ、プレママの会」には磯子区の母子保健コーディネーターが、拠点とともに事業を実施した。

**拠点事業としての成果と課題**

(成果)

①拠点事業へ参加するきっかけ作りとして、新規利用登録票に得意なことを記入する欄を設けたことで、ボランティアにつながる養育者のスキルが見える化して、声をかけやすくなった。

②活動支援のボランティアの紹介や活動場所の確保等、子育て支援関係者（地区センター、地域ケアプラザ、子育て支援者、地域ボランティア講師）の協力を得て子育てサークルへ支援を行うことができた。また「いそびヨニニュースター」で特集を組み、周知を行った結果問い合わせにつながっている。

③「プレパパ・プレママの会」と「あかちゃんタイム」を同時開催することで、妊娠期の方には出産後の子育てのイメージ作りや情報を得る場となり、先輩ママにはボランティア活動のきっかけ作りの場となるよう配慮している。

(課題)

①見える化した養育者の持つスキルを活かせる場を新たに検討し、養育者自身の活動の充実やスキルアップにつながるよう支援していく。また養育者同士のつながりの中から生まれる助け合いや交流等、見える化できないスキルの活かし方も検討していく。

②引き続き子育て支援連絡会で地域ごとの現状や課題を共有しながら、地域ごとの各地域の課題解決に向けて検討していく。

**振り返りの視点**

ア 子育てで家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。

イ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。

ウ 新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。

エ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。

オ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。

カ 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。

キ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。

ク 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。

ケ これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	【振り返り作業からの課題】 ①提供会員、両方会員とも会員数が横ばいで推移している。新規会員の獲得と、既存会員の継続について検討していく。	B	A
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。		A	B
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。		A	B
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

子サボをどこで知ったか  
(R2年度入会説明会参加者アンケート)

拠点ひろば・親と子のつどいの広場	29%
子サボ・いそピヨ各ホームページ	17%
母子健康手帳交付時・両親教室	15%
あかちゃん教室・乳幼児健診・こにちは赤ちゃん訪問	14%
区役所・広報	12%
保育園・幼稚園	3%
知人・その他	9%

n=189 複数回答有

会員数		H30年度	R3年度
会員数 (人)	利用会員	606	629
	提供会員	114	100
	両方会員	34	33
	合計	754	762
入会説明会		H30年度	R3年度
開催回数 (回)	拠点	17	30
	親と子のつどいの広場	1	7
	地域ケアプラザ・他施設	8	6
	合計	26	43
参加者数 (人)	集団・出張説明	133	152
	個別説明	194	108
	合計	327	260

事前打合せ件数・活動件数		H30年度	R3年度
活動件数 (件)	事前打合せ件数(件)	132	162
	全活動計	2,046	2,370
	提供会員宅預かり	121	325
	利用会員宅預かり	247	424
	保育園・幼稚園の送迎	635	775
	園の送迎と前後の預かり	145	245
	小学校・学童の活動	502	61
	拠点ひろば預かり	166	183
	親と子のつどいの広場預かり	46	61
	その他の活動	184	296
活動実人数 (人)	利用(両方)会員	133	144
	提供(両方)会員	65	67

1. 子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。

○区の協力を得て幅広く継続的な周知活動を行い、横浜子育てサポートシステム(以下:子サボ)の認知が進んだ。

(拠点アンケート「子育てサポートシステムを知っている」H29年度76.6%→R3年度80.2%)

・母子健康手帳交付時、両親教室、こにちは赤ちゃん訪問、保育園、学童保育へのリーフレットやチラシの継続配布

・区広報への入会説明会日程掲載

○子サボについてより詳しく「具体的にどんな利用ができるのか」を、養育者のニーズに合わせて周知した。

・プレパパ・プレママの会PR ・区内幼稚園チラシ配布 ・小学校入学説明会PR

○支援者が事業への理解を深め、養育者への案内に活かしてもらえるよう、関係機関の定例会で事業説明や周知を行った。

・こにちは赤ちゃん訪問員、子育て支援者、放課後キッズクラブ、公・私立保育施設長会議

○「いそピヨニュースレター」に、事前打合せの様子や預り場所の情報など、子サボについてのより詳しい情報を掲載した。

○提供・両方会員獲得に向けて、小学校保護者へのチラシ配布や広報特集記事の掲載を行った。だがR2・R3年度は新型コロナウイルス感染防止対策により予定者研修会の定員が半減し、事前に定員近い応募が予想されたため、大きな周知が行えなかった。今後小学校保護者や地域に向けての周知をすすめていく。

○提供会員希望者に対し、拠点の託児ボランティアいそピヨ応援隊(以下:いそピヨ応援隊)への登録をすすめた。託児の体験がモチベーションとなり、スムーズに会員登録へつながった。いそピヨ応援隊のうち、73%が提供会員に登録している。

○コーディネートに際し、できるだけ多くの提供会員が活動できるよう配慮して打診している。提供会員数は減少しているが、活動実人数は微増した。

2. 養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。

○拠点での入会説明会の回数を増やし、地域ケアプラザでの入会説明会も継続している。また親と子のつどいの広場

(以下つどいの広場)等、身近な地域での入会説明会が増えている。養育者の状況に合わせ、訪問も含めた個別の入会説明もしている。

○緊急の活動依頼に対して、利用会員の状況を聞き取り調整をしながら、可能な範囲でコーディネートに努めた。

○つどいの広場スタッフの提供会員が増え、それぞれの広場での子サボの預かり活動が増えた。拠点ひろばでの預かりも多く、つどいの広場とともに養育者にとって利用しやすく安心な預かりの場となっている。またその活動の様子を他の利用者が目にする事で、子どもを預ける事に対する不安の軽減にもつながっている。

**3. 会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動が継続できるように、支えることができています。**

○新型コロナの感染状況によっては、感染リスクや提供会員の負担を減らすよう、利用会員の理解を得て内容や頻度を調整しながらコーディネートした。事前打合せではマスク、消毒、換気などの感染対策を再確認した。また、緊急事態宣言発令に伴い「不要不急の活動を控える」という市の方針が出た際には、活動中の会員に連絡を取り、不安や負担感なく活動ができるように調整した。

○事前打合せの時点で日程が決まっていない活動については、利用会員から区支部に活動予定日を連絡するよう依頼し、会員の活動状況把握に適宜努めている。またその連絡の際に合わせて活動内容、頻度などの再確認ができ、変更がある場合は追加の事前打合せを行うなど、会員双方が無理なく活動できるようきめ細かく対応している。

○提供・両方会員へ活動についてのアンケート調査を行い、活動の様子や要望などを把握した。その結果、「子どもが急に駆けだす」など送迎の活動中にヒヤリ・ハットが多いことがわかり、「子サポ・応援隊通信」で事例を紹介して注意喚起をした。

○スキルアップのための研修会や会員同士で情報交換ができる交流会を開催した。

・ 作業を楽しみながらの会員交流会 ・ 虐待防止センター相談員による講座 ・ 緊急救命講習

・ アンケートでスキルアップ研修会のテーマとして要望が多かった、発達障害についての講座をオンラインで行った。

個人でオンライン視聴が難しい会員のために拠点研修室でも配信した。

○「子サポ・応援隊通信」の中で、活動中の会員の声やアンケートによる活動の感想などを掲載し、「地域の中での支え合いの良さ」を会員や関係機関に向けて発信した。

○個人情報の管理が適切になされるよう、コーディネーターは法人の情報セキュリティ研修を毎年受講し、会員へも事前打合せの場や「子サポ・応援隊通信」を通じて注意喚起をしている。

**4. 養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。**

○養育者からの活動依頼や問い合わせが、他の支援の入り口になり得ることを常に意識して丁寧な聞き取りをしている。横浜子育てパートナーと連携し他機関の情報提供や相談につなげ、区とも連絡を取り合って支援方法について検討している。

○養育者の状況に応じてよりの確な対応ができるよう、コーディネーターは子サポ他区支部とも連携し、また区の講座や法人の研修会に参加してスキルアップを心がけている。

**評価の理由(区)**

①②母子健康手帳交付時、両親教室、家庭訪問、あかちゃん教室、乳幼児健康診査、窓口での相談など様々な機会に必要な方に子育てサポートシステムの紹介を積極的に行っている。

・ 広報で特集記事を組んだり、母子訪問指導員・子育て支援者・こんにちは赤ちゃん訪問員等の連絡会で横浜子育てサポートシステムを広く周知をしている。

・ 提供会員を増やすために、区の関係団体の定例会議で子育てサポートシステムコーディネーターが説明をする機会を設けたり、小学校にチラシを配布できるよう調整をした。

③拠点が行く、提供・両方会員予定者研修の講師の調整等を行った。

④配慮が必要な利用者については、地区担当保健師が子育てサポートシステムの手続きなどに同行し、安心して利用できるように支援した。

**拠点事業としての成果と課題**

(成果)

①区民が入会しやすく、また安心して利用や活動を継続できるよう調整に努めた結果、事前打合せ件数、活動件数、活動実人数が増加した。

②親と子のつどいの広場と連携し、広場での入会説明の実施や広場を利用した預かりが増え、養育者にとって子サポがより身近になった。

③提供会員・両方会員へのアンケートを実施し結果を会員への情報提供や交流会の内容に活かした。

(課題)

①提供会員数・両方会員数が共に減少している。今後小学生の保護者や地域に向けての周知をすすめて新規会員獲得に努めるとともに、既存の会員も継続していけるよう支援する。

**振り返りの視点**

ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。

イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。

ウ 養育者に対して、必要時に利用相談しやすく感じられるような周知活動等の工夫をしているか。

エ 会員が相互の合意のもとに気持ちよく安全に活動できるよう、会員の状況に応じた活動方法の提案や、丁寧なコーディネートができていないか。

オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や会員のフォロー、追加のコーディネート等を行っているか。

カ 提供・両方会員が活動の意義を感じながら、安心・安全な活動を継続して行えるよう、研修会等の取組がなされているか。

キ 会員の活動意欲を高めるため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。

ク 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を促進する取組がなされているか。

ケ 会員間で授受される個人情報会員が適正に取り扱うことが出来るよう、注意喚起や研修等の取組がなされているか。

コ 援助活動の調整等を通して把握した子育てに関するニーズを、必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。

サ 専門的対応が必要と考えられる相談について、こども家庭支援課との連携、連絡体制のもと、適切に対応しているか。

シ 子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができていないか。

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	【振り返り作業からの課題】 ①事業内容を養育者にわかりやすく伝える工夫を検討する。 ②利用者支援事業を広く区民に知ってもらうための周知方法を検討していく必要がある。 ③相談内容の分析(相談動機や相談経路、相談内容、相談者の年齢や所属)をすることで、周知や情報の整理に活かしていく。 ④利用者支援事業の対象(年齢・相談内容)を振り返り、誰とネットワークを組めばよいか明確にしていく。 ⑤地域の関係機関に利用者支援事業の役割を知ってもらう。	B	A
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。		A	B
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。		B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)	H30年度		R3年度	
	情報収集	5件	12件	
周知活動	33件	36件		
研修参加	16件	25件		
出張相談	12件	11件		
相談(電話も含む)	273件	294件		
相談メール申込		3件		
オンラインひろば		3回 (計7組参加)		

  

●個別相談の内容				
H30年度			R3年度	
1位	親自身	153件(29%)	親自身	221件(36%)
2位	子どもの生活	103件(19%)	子どもの生活	119件(19%)
3位	子どもの発育	52件(10%)	就園就学	66件(11%)
			子どもの発育	62件(10%)

●プレパパ・プレママの会での事業周知：R2年度 49組(父38人・母49人)、R3年度 88組(父63人・母88人)  
R2年度プレママ登録者の産後の利用率：65%(R3/3/31時点)

●研修への参加(R3年度) 25件：障害児地域訓練会見学、区子育て講演会「だいすきが伝わる関係づくり」「ひとり親家庭の支援を通じて」「子育て支援実践者リーダーシップ研修」「多胎児家庭への支援」「ヤングケアラーの支援」「傾聴講座」「対人援助の基礎」「発達障害に寄り添う」「親になる人への支援」、オンライン講座、法人研修など

**1.拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。**  
 ○区の協力を得て、幅広く継続的な周知活動を行っている。拠点アンケートの結果、利用者支援事業(横浜子育てパートナー、以下子育てパートナー)認知度が上がった(認知率：H29年24%、R3年34.6%)。  
 ・養育者に向けて区の事業等でのチラシ配布を依頼している。  
 (乳幼児健康診査、あかちゃん教室、両親教室、こんにちは赤ちゃん訪問、母子健康手帳交付時)  
 ・4か月児健康診査やあかちゃん教室に出向き、養育者にパンフレットを手渡ししながら拠点の説明や事業の周知を行っている。  
 ・関係機関の定例会に出向き、事業説明を行うと共に周知を依頼した。  
 (公・私立保育施設長会議、こんにちは赤ちゃん訪問員定例会、子育て支援者定例会)  
 ○初来所者には拠点スタッフが丁寧に事業説明を行っている。相談窓口としての子育てパートナーも案内している。  
 ○「いそびニュースレター」では子育てパートナーの特集を組み、丁寧な事業周知や訪問予定を掲載している。また「子サポ・応援隊通信」でも事業の紹介を掲載している。  
 ○事業内容を養育者にわかりやすく伝え、気軽に利用できるように工夫を加えた。  
 ・チラシをリニューアルし、情報にアクセスしやすくなる様に拠点のホームページのQRコードを添付した。  
 ・相談予約の方法にメールを加え、気軽な申込みにつながっている(R3年12月開始)。  
 ○区や拠点で開催する「プレパパ・プレママの会」で拠点の説明と事業周知を行った。妊娠期の対象者に周知する機会が増え、出産後の拠点利用や相談にもつながっている。  
 ○拠点から遠い地域の人が身近な場所で相談できるように「親と子のつどいの広場」や「子育てサロン」に出向き相談や情報提供を行った。拠点の説明や事業の周知も行うことができた。  
 ○ひとり親家庭に向けての支援として、SNSなどを活用する事業展開も検討し対象者に向けて発信していく。

**2.相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。**  
 ○相談者の気持ちに寄り添い、傾聴し、丁寧な対応を心掛けている。また、多様な相談内容に応じた情報提供やニーズに合わせた支援を行っている。  
 ・相談内容に応じ、必要な場合は区と適宜連絡を取り合い支援方法を検討している。また、相談内容やニーズに応じて関係機関、他区拠点等と連携し、それぞれの役割分担を検討しながら継続した支援を行っている。  
 ・適切な相談や支援に対応できるよう、情報を整理更新している。  
 ・各種研修に参加し、多様な相談に対応出来るようスキルアップをはかった。  
 ○外出に不安を持つ妊婦や養育者のニーズに応え、オンラインひろばを開催した。  
 (リモート子育てカフェ・マタニティさんのためのオンライン安産カフェ・オンラインあかちゃんひろば)

**3.子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援にかかわる関係機関団体や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。**

○拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域のつながりの強化を幅広く継続的に行っている。顔の見える関係を大切に、支援につながるネットワークの構築に努めた。

- ・コロナ禍で休止した事業の再開に向けて、地域のひろばやサロンと情報交換を行い、事業協力することができた。
- ・各地区の子育て支援連絡会やいそごひろば連絡会等に参加している。事業の周知やイベントでの協力体制をとり、地域の関係機関団体と顔の見える関係づくりを継続している。
- ・区内子育て支援施設に出向き、事業の特徴を知ること、養育者の相談や情報提供に活かしている。
- ・「磯子区子育て応援マップ（地域の子育て支援施設情報）」「いそご外あそびマップ（園庭開放情報）」を作成・更新し養育者や育児支援センター等に提供している。「いそご外あそびマップ」は区役所、子育て支援者、親と子のつどいの広場に提供し、「いそピオニュースレター」にも掲載している。

○磯子区基幹相談支援センターと連携し、発達に不安を抱える未就学児と家族の集いの場である「いぶきっず in いそピオ」を開催した。拠点休館日に開催することで、発達の気になる親子が気兼ねなく過ごせる場の提供と専門機関の相談につながるきっかけを作ることができた。

○ひとり親家庭向けの食糧支援（フードパントリーはまっこ南）へ定期的に出向き、事業協力をしている。ひとり親対象のイベント、地域ケアプラザで開催している学習支援などの情報提供を行うことができた。

**評価の理由(区)**

①あかちゃん教室、乳幼児健康診査、母子訪問等の場で横浜子育てパートナーについて周知した。また、あかちゃん教室で横浜子育てパートナーが直接、相談機能の周知や活動ができるように調整した。

- ・関係機関の会議等で横浜子育てパートナーを周知できるように場の調整を行った。
- ②横浜子育てパートナーと日々相談者の対応について連絡を取り合っている。定例会で相談者の情報共有や対応について協議する等、組織で検討できる場を設けた。

③妊娠期から拠点につながるように母子健康手帳交付時や両親教室で拠点の紹介を行った。

- ・「プレパパ・プレママの会」を毎月1回平日に開催している。平日開催だと仕事をしていると参加が難しいという声が多く、R4年度から区と拠点と協働で年に3回土曜日に「プレパパ・プレママの会」を実施する予定である。
- ・地域の子育てに関わる関係機関が参加する、地区別子育て連絡会を拠点とともに企画、実施している。

**拠点事業としての成果と課題**

(成果)

①利用者支援事業について幅広く継続的に周知活動を行っている。拠点アンケートの結果、子育てパートナーの認知度が上がった。

②「いそピオニュースレター」「子サポ・応援隊通信」で特集を組み事業の周知に務めた。また、気軽な相談につながるようにチラシのリニューアルや相談申込みの方法にメールを追加するなど工夫した。

③拠点ひろばへの来所が難しい養育者にむけてオンラインひろばを開催し、相談や参加者同士の交流を持つことができた。拠点ひろばやイベントの紹介、事業の周知も行った。

④相談内容に応じて、区と適宜連携し、適切な支援方法を検討している。

⑤磯子区基幹相談支援センターと連携し、発達に不安を抱える親子が気兼ねなく過ごせる場の提供と専門機関への相談につながるきっかけを作ることができた。

(課題)

①子育てパートナーが広く区民に認知されるよう、さらに周知方法を検討していく。

②関係機関の会合等に出向き、子育てパートナーの役割を知ってもらうため、今後も連携強化を進めていく。

③養育者の多様な相談やニーズに応えるため、地域資源の把握に努めていく。

**振り返りの視点**

ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。

イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。

ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。

エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。

オ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介・支援依頼等について、相談者が円滑に利用できるような対応をしているか。

また、専門的な対応を要する相談については、内容に応じて速やかに関係機関に紹介・仲介する等、適切な対応を行っているか。

カ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら継続的な関わりをもっているか。

キ 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点から振り返りや検討を行っているか。

ク 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。

ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。

コ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実や、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげているか。